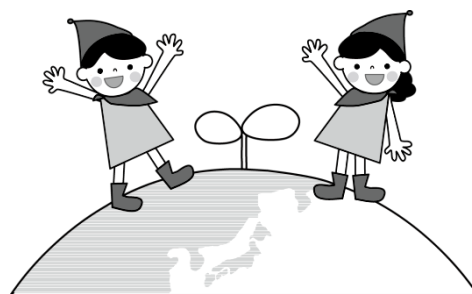


理科

1 教科の目標

2011年3月11日、巨大地震が東北関東沿岸地域を襲い、地震、津波とともに、原発事故が甚大な被害をもたらしました。科学技術が発達した現代社会では、自然災害だけでなく、科学技術に起因する災害も大きな悲劇を引き起こします。また今日、世界が直面している地球規模の環境問題は、発達した科学技術の負の側面と見ることもできます。

これらに対処するために、私たちは、科学知識を身につけ、科学を正しく活用する能力「科学リテラシー」を養う必要があります。理科の目標は、その基礎となる科学知識を身につけることにあります。



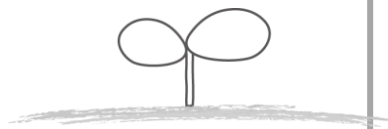
2 本校での学習

高等学校の理科は、『物理』『化学』『生物』『地学』の4分野からなります。本校では、1年次は必修科目のみで、2年次から選択科目に分かれていきます。

2年次以降の選択科目については、1年次の進路学習や理科学習を通して考えていきますが、主に自分の興味関心と希望する進路から決めます。進路との関係では、「文系進学者は受験科目として適当なものを選ぶ」、「理系進学者は『化学』が必須で、さらに理学・工学系では『物理』を、看護・農学系では『生物』を選択する」ことが一般的です。1年から2年時での選択ですが、これは、**変更できません**。つまり、**希望する進路を固める必要があります**。特に進路と理科学習との関係を、自分で調べてみることが必要です。わからない点があれば、教科担当者に相談してください。

学 年	科目 (単位数)
1 年次	<共通> 物理基礎 (2 単位) および 生物基礎 (2 単位) を全員必修 ・ <u>物理基礎</u> 物理は「力学・波 (音)・電気」について、身近な事象がどのような決まりに支配されているのかを学習します。 ・ <u>生物基礎</u> 生物は「生命」について、生物の共通性とDNA、体内環境の維持と健康、生態系の成り立ちと保全など、様々な生命現象を学習します。
2 年次	<理系> 共通：化学基礎 (2 単位) および 化学 (2 単位) を全員必修 選択：物理 (2 単位) または生物 (2 単位) の一方を選択 <文系> 共通：地学基礎 (2 単位) または化学基礎 (2 単位) を全員必修
3 年次	<理系> 共通：化学 (4 単位) を全員必修 選択：物理 (4 単位) または生物 (4 単位) の一方を選択 ※ただし、選択について、2年からの科目を継続する。 <国公立文系> 地学探求、生物探求、化学探究から2科目選択

3 学習方法について



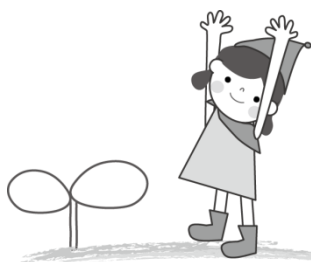
① 授業に集中し、ノートをとる

ノートは授業内容を振り返るためのもの。板書されたものだけでなく、授業の中で大切だと感じたこともメモして、自分の参考書となるノートをつくろう。

学習では、まず用語を覚えよう。教科書用語(太字)を覚え、理解することで、学習内容が頭に入り始めます。用語をきっかけに、学習を進めていこう。

② 復習が大切

基本的には予習より、復習を重視しよう。ノートを見直し、教科書・プリントなどを読み直して、内容の理解を図ります。課題が出たら、必ずやります(やり残すと、気持ちよくない)。その上で、定期的に問題集に取り組んでみよう。



③ 問題演習を欠かさない

問題集を十分に活用しよう。問題集は、第2の教科書。重要事項がコンパクトにまとめられたページは、特に試験前に役立ちます。問題演習を繰り返すことで、理解が定着します(3回が理想!)。解説を読んでもわからないときは、質問に行こう(わからないままでは前進しない)。

④ 自然や科学に興味・関心をもつ

新聞の科学記事を読もう。話題を集めた科学的な出来事や自然の特集記事など、日常的に、継続的に読んでいくと知識が増え、興味・関心が増します。

書籍では講談社「ブルーバックスシリーズ」や雑誌「Newton」などが読みやすく、また専門的な知識にも触れられます。本校図書館にもあります。

さらに、テレビ番組でもNHK「サイエンスゼロ」をはじめ、自然や科学を扱った番組は多いです。見ることを勧めます。

幅広い教養は、進路選択や小論文作成にはもちろん、心豊かな人生をおくる上でかならず役立ちます。

